令和５年度　府立北嵯峨高等学校　学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
「独創質実（何事も自ら考え、主体的に判断し、真摯な態度と素直なこころで行動する。）」の校是の下、高校生活の限られた時間の中、集中力と工夫により学習と部活動の両立を実践し、「人を育て、心を育む」教育を目指す。 具体的には、 １　規律ある生活により、学力・体力・情操の向上を図る。 ２　科学的認識を養い、創造性と実践力を育てる。 ３　保護者・地域との連携を深め、生徒の進路についての願い　を実現することに努める。 ４　地域の歴史と文化遺産に対する理解を深め、その文化を守り育てる力を養う。	【成果】⑴新学習指導要領の実施や観点別評価などはスムーズに導入することができた。⑵iPad の活用場面が増えてきた。⑶遅刻０を達成するなど生活習慣・学習規律などが確立されている。⑷部活動や生徒会は活発に活動している。⑸進学や就職については優れた成果を上げた。⑹人権学習は学年毎に丁寧に実施できている。⑺配慮を要する生徒の情報を共有し専門機関とも連携して組織的に対応することができた。 ⑻広報活動は好評であった。 【課題】⑴観点別評価は研究を続け改善していく必要がある。⑵スタディサプリの活用に差があり、一層個別最適な学びに繋げる必要がある。　⑶部活動・生徒会において地域との連携や生徒の自発的な活動などを増やして行くことが望まれる。⑷地域の教育資源を活用する場面や保護者の参加機会を拡大する必要がある。⑸コロナ禍を経験した生徒のメンタル面のサポートが必要。⑹進路に向けた活動を早期に取り組めるようにする指導が必要。⑺ICTの活用が広がっているが情報モラル・ルールの確認が必要。⑻交通マナーの指導を徹底して行う必要がある。	⑴　新学習指導要領に基づく教育の研究・実践 　新学習指導要領に基づいて、指導と評価の一体化についての研究・実践を推進し、社会で必要とされる資質・能力の育成に資する。 ⑵ ICTの効果的活用と家庭学習の定着 　授業でのタブレット利用や家庭でのスタディサプリの有効活用などを促進して、学習指導の一層の充実を図る。 ⑶　部活動のさらなる充実と発展 　運動部・文化部の活性化を推し進めて「強い北嵯峨」を実現し、生徒の自己肯定感や達成感の高揚をはかるとともに、豊かな人間性の育成に資する。 ⑷　嵯峨・嵐山の教育資源の積極的活用 　歴史的風土に恵まれ、観光資源豊かな北嵯峨という地域のメリットを最大限に生かし、地域への関心を深め、課題意識をもって学ぶ活動を実践する。 ⑸　個に応じた指導と合理的配慮についての柔軟な対応 　個々に多様な困難や課題を抱える生徒一人一人の状況に応じて、きめ細やかに連携しながら、チーム学校として対応する体制づくりを進める。 ⑹　健康・安全に主体的に適応できる生徒の育成 　ウィズ・コロナ（ポスト・コロナ）社会における変化に柔軟に対応し、交通安全を含め自分と他人の身を守る行動をとるなど、健康・安全に主体的に適応できる生徒の育成を目指す。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
学習指導	◇新学習指導要領に基づいた教育実践を顧み、指導と評価の一体化によりカリキュラムマネジメントを実施する。	◆昨年度の指導と評価の状況を分析し、社会で必要とされる資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」を実現する。	１	B	B	ICTの活用は進んでおりより効果的な活用が求められる。個々に「主体的・対話的で深い学び」に向けた取組はできたが、学校体制として取り組み学力向上を目指す必要がある。スタディサプリの活用する場面が増えたが、活用範囲を広げ、家庭学習の定着にも繋げていきたい。
	◇iPad やスタディサプリなど ICT の活用方法を精査し、学習習慣の確立と学力向上を実現するとともに、学びの保障につなげる。	◆iPad 等の活用法を校内で共有し、研究する。組織的なスタディサプリの活用により基礎学力を定着させ、家庭学習の習慣化を図り、発展的学習へつなげる。オンライン授業等様々な教育形態を利用し、学びを止めない体制を構築する。	２	B		
生徒指導 特別活動	◇集団への帰属意識を育成し基本的な生活習慣を身につけさせる。	◆身だしなみ指導を通じて、本校生徒としての自覚と誇りを養うとともに、基本的生活習慣の定着を図るために教職員の共通理解と一致した指導体制を構築する。	３	B	B	生徒と連携して服装規定を見直した。ルールの意味を生徒・教職員が共通理解する必要がある。挨拶や清掃はできるが、身だしなみや校則の遵守は改善の余地がある。交通マナーは依然として課題であり、自転車も歩行者も指導が必要である。生徒会が学校行事や地域活動に参加し責任感や社会性を高めた。生徒の自主性の創造性を高めていくことを目指す。
	◇交通規則の遵守と交通安全に対する意識を高める。	◆関係各団体と協力し、交通規則の順守と、自転車の交通マナー及び交通安全に対する生徒の意識を向上させる。	４	B		
	◇生徒会や部活動を活性化し、地域の教育資源を活用しながら生徒の主体性・社会性を育成する。	◆生徒会や部活動を奨励し自らを研鑽する姿勢と豊かな人間関係を獲得するとともに、地域の活動に主体的に参加することで社会性やﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ精神による豊かな人間性の育成を目指す。	５	A		
進路指導	◇教職員全体で、生徒一人ひとりの希望進路実現に向けて進路指導を行い、キャリア意識の形成を図る。	◆個々の生徒の学力状況・学習状況・進路希望をデータに基づいて客観的に把握し、多方面から指導し、学力向上と進路希望実現を図るための情報提供や指導体制構築をおこなう。	６	A	A	情報共有を行なうことができているが、各方面が連携したシステムが必要である。学年に応じた段階的な進路学習は成果を上げており継続する。進路に向けた活動を早くから取り組めるように意識付けし、国公立大学や難関私立大学への進学を促進することが望まれる。受験期の授業や指導の在り方を検討し受験が迫っても進路が決まってもしっかり高校生活を送れるような体制が望まれる。
		◆キャリア教育や進路指導を充実し、学内外の連携のもとで生徒個々の進路意識の向上を図るとともに、適性と希望に応じた進路指導を推進し、進学・就職ともに第一志望実現率の向上に努める。	７	B		

人権教育	◇人権問題を正しく理解させ、いじめの根絶を図る。	◆あらゆる教育活動に人権の視点を入れ、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決や、いじめ等の未然防止のための意識を高め態度を育成する。	8	B	B	人権学習の時間における取り組みは充実しているが、人間関係構築に苦手意識を抱く生徒が増加するなど時代に応じた内容の見直しが必要である。
健康・安全教育	◇健康の維持増進や安全について自己管理ができるように促す。	◆健康診断の結果を基本的生活習慣の確立への指導に繋げ、主体的に自己の健康を管理・実践できる力を養う。	9	A	A	主体的な健康管理について医療機関受診を促したり保健便りによる啓発など意識を高めている。生徒が清掃活動に主体的に取り組めるような指導を徹底するべきである。様々な課題を抱える生徒に対して保健部を中心に、教育相談会議で情報共有を行い、SC や SSW と連携し丁寧に対応できたが、SC の時間不足が課題である。熱中症対策、感染症対策などを進める必要がある。
	◇教育環境づくりを推進するとともに、保健衛生の意識を高める。	◆日々の清掃活動を徹底し、美化意識、公共心を養い、良好な学習環境を自分たちで作り出す意識を育む。 ◆ウィズ・コロナ（ポスト・コロナ）下において保健衛生を意識した主体的な行動がとれる態度の育成を目指す。	10	B		
	◇教育相談を充実させ、特別な支援を必要とする生徒への組織的対応の推進を図る。	◆日常の生徒観察を重視し教育相談会議と連携を図り、安心・安全な学校生活を送れるように支援する。 ◆様々な課題を抱える生徒については、関係機関・SC・SSW と連携しながら、発達段階に応じて教育的・心理的な支援を行い、気軽に相談できる体制づくりに努める。	11	A		
図書館指導	◇図書館を活用した指導を充実させ、生徒の主体的で深い学びにつなげる。	◆ICT の効果的な活用を含め、図書館の機能や役割の充実を図り、授業や探究学習等の教育活動を支援する。文化的行事を企画し、図書委員会活動の活性化を図り、生徒の主体的で深い学びにつなげる。	12	A	A	図書委員会や教科指導により、生徒の読書活動が活発化した。朝読書やビブリオバトルなど多彩な取り組みが行われた。図書館の運営を改善し、生徒が本に親しむ機会を増やすことが目標である。
安全管理 情報管理	◇適切にリスク管理を行い、安心・安全な教育活動を継続する。	◆危機管理マニュアルの見直しや研修・訓練を実施することで、生徒・教職員の危機管理能力を高める。	13	B	B	避難訓練を実施できたが、一人一人に危機に対する行動を考えさせる必要がある。大災害が起こった今、危機管理への認識を常に新たにし訓練・研修が必要である。情報モラル向上が重要である。
	◇ICT 活用の拡大に対応して生徒・教職員の情報モラルやセキュリティ意識を高める。	◆講演会やルール作りを通して生徒の情報モラルを高め、セキュリティインシデントの教員研修などを実施する。	14	B		
家庭・地域社会との連携	◇広報活動の一層の充実を目指し、迅速できめ細やかな情報提供を図る。	◆各中学校との連携を深め信頼関係を築く。HP や SNS を活用した広報活動を一層充実させ、「行きたい」学校作りを進める。	15	A	A	HP や SNS を活用し学校情報を発信できている。地域資源を活かした教育を深化し、学校の魅力を伝える取り組みを実施したい。課外活動での地域との連携を強化し、生徒の活躍を広報することで信頼される学校を目指す。
	◇地域に根ざし、保護者や地域に信頼される学校作りに努める。	◆学校運営協議会・PTA との連携を深め、地域の資源や文化的歴史的価値を活用した教育を推進し、地域に根ざした信頼される学校作りに努める。	16	A		

学校関係者評価委員会による評価	教育活動は学習面・特別活動など３年間で成果を上げており進路結果にも表れている。しかし自宅学習など自主的・自発的な学習習慣の定着が課題である。 新型コロナウイルス感染症による教育活動の制限が無くなり、行事など生徒の活動が活発化している。さらに生徒会やボランティア活動など生徒の自主的な活動で地域社会との連携を図っていく必要がある。ただし感染症対策は引き続き必要である。 小中高で地域と密着した取り組みが行われており、一層連携して段階的に生徒育成を図り、地域のリーダーを育てることが望まれる。 創立５０周年を節目として活用し、地域に根ざした学校のイメージを定着させることが望まれる。

次年度に向けた改善の方向性	生徒が自主的に考え、行動できるような場面を創出する。様々な機会をとらえ多様な集団の中で人間関係を築くコミュニケーション能力の育成を図る。生徒が学校外に出て他校種や地域社会などと積極的に関わる機会を増やす。創立５０周年を契機とし未来の北嵯峨高校の姿を明確にする。